

水戸市清掃工場「えこみっと」について

【日時】 令和 6 年 5 月 21 日 午後 1 時～ 3 時

【場所】 水戸市清掃工場「えこみっと」

1. 視察地の概要

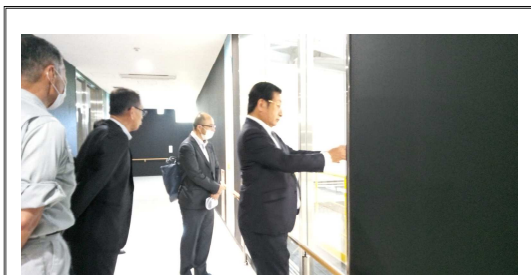
水戸市は、首都東京から北東へ約 100 キロメートルの距離にあり、茨城県のほぼ中央に位置し県庁所在地です。地形は、低地地区の南東部、台地地区の中央部、丘陵地区の北西部に分けられており、水戸徳川家の城下町として繁栄し、日本三名園の一つでもある偕楽園や弘道館等歴史的資源、千波湖などの豊かな自然と都市的魅力を兼ね備えた町で、市政の施行は、明治 22 年 4 月に日本で最初に市政を施行した全国 31 市の一つです。平成 31 年には市制施行 130 周年を迎え、平成 13 年に特例市に移行し、令和 2 年 4 月 1 日から中核市となりました。

徳川家御三家でもある水戸徳川家の人物の中でも、テレビドラマ「水戸黄門」で知られている第 2 代藩主光圀公や偕楽園や弘道館を創設した第 9 代藩主斉昭公が有名で市内には、光圀公、斉昭公ゆかりの場所が数多くあり、多くの訪問者で年中賑わってみえるとのことでした。



水戸市清掃工場にて

2. 調査事項の概要



現地視察

西尾市において、吉良町岡山地内に岡崎西尾地域ごみ処理施設整備事業が進められている中、令和 2 年 4 月から水戸市では清掃工場が稼働され、1 日処理能力が 330 トンのごみ焼却施設と 55 トンのリサイクルセンター等からなり、市内全域のごみを安全・安定的に処理をするとともに、ごみを燃やす際に発生する熱を効率よく回収し発電をおこない発電所としての一面も持っている中で、建設場所の選定は、ストーカー式方式を採用した経緯は、

運営管理業務はどのように行っているのか、焼却灰の資源化はどのようにされているのか、リサイクルセンターでの障害者雇用など詳細についてお聞きし当市において今後の整備事業に参考にしたいと思い水戸市への視察を考えました。

3. 主な質疑とその内容

「水戸市清掃工場「えこみっと」について
5 月 21 日の行政視察の際のについて
水戸市剪定枝粉碎機貸与要綱
資源物とごみの分け方・出し方の資料

別紙資料参照



視察の様子

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

水戸市の清掃工場は、環境に優しくエコな清掃工場を目指しており、焼却方式を決定するにも「環境負荷の少ない施設」「資源循環に向けた施設」「経済性に優れた施設」の基本方針を示し入札を実施したところ、全連続焼却炉ストーカ炉に決定され、ゴミを燃やす際に発生した熱を効率よく回収し発電をおこない、年間電力会社より 9 億円弱の収入を得ることが出来、年間の委託料に当てることが出来る。焼却灰の資源も検討され、主灰キットからセメント・砂などとして活用している。CO₂対策も水蒸気・集塵機を通してきれいなガスとしては排出されるなど少しでも環境に支障をきたさないように努めてみえます。ほかにもゴミの焼却炉への自己搬入方法も現地で見させていただき、ゴミ減量対策・食品ロス削減への取り組み・ごみと資源物の分け方・ゴミ問題に対策としても市民へ各種イベントなどを開催するなど努めてみえました。

水戸環境テクノロジー株式会社にゴミ焼却場施設・リサイクルセンターを委託決定されたのは、上記の基本方針によって提案された結果です。

今回の視察をおこない施設内を見学させていただきゴミの搬入からの流れ・工場への入退場の通路の確保など今後の岡崎西尾地域ごみ処理施設整備事業に取り入れていければと考えています。



現地視察

「柏×保育チャレンジ」について

【日時】令和6年5月22日 10時00分～11時30分

【場所】柏市役所議会棟委員会室

1. 視察地の概要

柏市は、千葉県の北西部に位置し、中核市、「環境未来都市」に指定されている。人口は約41万人で、面積は114.7k㎡。

また、東京都心部や筑波研究学園都市（つくば市）、成田国際空港（成田市）、幕張新都心（千葉市）などから30キロ圏内に位置し、道路や鉄道の交通条件に恵まれた都市である。



市役所前にて

2. 調査事項の概要

現在、西尾市においても課題となっている保育士不足を補う施策を行う先進地として、「柏×保育チャレンジ」の取り組みを参考にさせていただき、本市にも好事例を取り組んでいただくため。

3. 主な質疑とその回答

Q. 柏×保育チャレンジを始めた経緯はどのようなか。

A. 従前から柏市と市立園が協力して事業を実施してきた土壌があったが、令和4年度に実施した園選びサイトに係る実証実験（公立園及び私立園の59園が参加で、「柏×保育チャレンジ」のロゴを使用したのがきっかけです。

その後、柏市と私立園が協力して実施する事業を「柏×保育チャレンジ」として位置づけ取り組みを推進している。

Q. 柏×保育チャレンジの概要はどのようなか。

A. 市と保育事業者団体が一体となって取り組む「保育の質の向上」や「人材確保」に関する事業。

子ども、保護者、保育者、園及び自治体が「共に育ちあう」ことを目指している。

Q. 柏市と協議会が一体となって進めているが、その経緯はどのようなか。また、どのような連携を行っているか。

A. 従前から柏市と協議会が協力して実施してきた事業

- ・園長交流会（公立保育園を中心として園レベルで交流）
- ・保育士合同就職説明会（協議会から当日運営スタッフの派遣）

「柏×保育チャレンジ」として実施した事業

協議会メンバーを含めた連絡会において研修テーマや内容とそれぞれの役割を検討して事業を実施しています。

- ・園長、副園長交流会（グループワークのテーマ検討、当日の運営を合同で実施）

(自民隆盛会・千葉県柏市)

- ・ネイチャーゲーム研修（全ての園に共通する自然遊びをテーマに選定）
- ・保育士養成講座（私立園で勤務しながら保育士資格を取得した職員に講師を依頼）

Q. この事業に対する予算は補助金等を含めてどのようなか。

A. 柏市合同説明会（令和4年度）3,641,585 円

（子ども・子育て支援体制整備総合推進事業費補助金：1,853,000 円）

研修・交流事業（令和4年度）547,814 円

（保育対策総合支援事業費補助金：273,000 円）

Q. 保育士からの声はどのようなものがあったか。

A. ネイチャーゲーム研修においては、自然の体験から子どもたちの成長に大きくつながると
思い、たいへん実りのある研修となった。

今まで気づけなかった視点を知れた。

子どもたちにも段階を変えて楽しめるものが多く、実践に取り入れやすい。

子どもたちと自然の楽しさを共有したい。

受講者の9割が「たいへん満足」という回答だった。

Q. 今後の課題や展開についてはどのようなか。

A. 柏市合同就職説明会において来場者の減少が課題となっている。

今後の展開は「園のドキュメンテーション」等の充実により類似説明会との差別化を推進
したい。

けんしゅう・交流事業においては、各事業の内容の充実が課題となっている。

今後の展開は、年間の開催日を事前周知すること。周知活動の強化。効果測定方法を検討
する。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

・まず、様々な取り組みがされて
いることは参考になった。

・「柏×保育チャレンジ」は、市と
保育事業者団体が一体となって
取り組む「保育の質の向上」や
「人材確保」に関する事業であ
ること。

子ども、保護者、保育者、園及
び自治体が「共に育ちあう」こ
とを目指していること。

・合同就職説明会や研修・交流事業の保育士養成講座やネイチャーゲーム研修、また、園長
交流会や副園長交流会やマネジメント研修など。

・月額4万円の給与の上乗せや月額7万2千円を上限とした家賃補助などを西尾市にも取り
入れたらどうかと考えます。



視察中の様子

「農福連携」について

【日時】令和6年5月23日 10時00分～11時30分

【場所】横須賀市役所

1. 視察地の概要

横須賀市は、県の南東部、三浦半島中央部に位置し、三方を海で囲まれる海洋都市。夏は涼しく、冬は温暖な気候で。気温の高低が比較的少ない過ごしやすい土地。

市制施行 明治40年2月15日

中核市移行 平成13年4月1日

人口 371,930人（R6.4.1現在推計）



市役所玄関にて

2. 調査事項の概要

「農福連携」とは、障がい者が農業分野で働き自信や生きがいを持って社会参画するとともに、担い手不足や高齢化が進む農業分野の課題解決を図り、地域の活性化、共生社会の推進を実現するもの。農業分野と福祉分野の双方の課題解決を目指している。

＜横須賀市の取り組み＞

- ・平成30年（2018年）6月19日にパーソナルサンクス株式会社（現在はパーソナルダイバース株式会社）との間で「農業と福祉の連携推進に関する包括連携協定」を締結。
- ・平成30年10月1日「よこすか・みうら岬工房」開設（横須賀市長沢）
- ・令和3年1月4日「よこすか・みうら岬工房大矢部」開設（横須賀市大矢部）
- ・令和3年3月「農業と福祉の連携推進ガイド」の作成・発行
- ・「農福連携体験会」「障がいのある中学生を対象とした農業就労体験」の開催

3. 主な質疑とその回答

Q. 農福連携を進めている経緯は。

A. 本市では障がい者雇用を促進するために「特例子会社等設立支援補助金」「横須賀市障がい者雇用奨励金」等の制度を設けている。

パーソナルダイバース株式会社（当時はパーソナルサンクス株式会社）の進出先として、こうした制度を活用し市内に事業所を設立したいとの提案があった。協議の結果、双方協力して取り組むことが可能との結論に達した。

Q. 横須賀市の農福連携の概要は。

A. 本市の農福連携は、農作業受託を行う特例子会社との包括連携協定によるものである。障がいのある社員が指導社員と共に契約農家の畑やハウスに出向き、指導社員の指示のもとで農作業を行っている。（指導社員1人、障がいのある社員3人が1チーム）

障がい福祉サービス事業所や農家の理解促進に努めている。

Q. どのような体制で進めているのか、行政の関わり方は。

A. 包括連携協定に基づき、三者の事務担当者による打合せで検討している。

(三者)・横須賀市民生局福祉こども部障害福祉課

・横須賀市経済部農水産業振興課

・パーソナルダイバース株式会社よこすか・みうら岬工房

Q. 障がい者の雇用のマッチングはどのように行っているか。

A. 市内には、障がい者の就労を支援する公的な機関「よこすか就労援助センター（よこすか障害者就業・生活支援センター併設）」があり、就労を希望する障がい者の障がい状況や希望する仕事の内容などの情報を把握している。パーソナルダイバース株式会社は、そこに障がい者雇用を相談するなどしてマッチングする人材の確保に努めている。

会社が重視していることは、「あいさつができる」「返事ができる」「わからないことをきちんと聞ける」「規則的な生活を送ることができる」などの基本的な態度。

Q. 定職率はどのくらい。

A. 現在、社員数は31人で、これまでに14人が退職。定職率は約70%になる。

Q. 現在の課題や苦労していることは。

A. 障がい分野と農業分野の相互の理解が進むことが必要。農作業を理解して農業に就労したいと思う障がい者が増えること、障がい特性を理解して農作業を手伝ってもらいたいと思う農家が増えることが大切。

それぞれが農福連携に接する機会を継続的に設けること、が必要。

Q. 今後、新たに検討していること。

A. 目標人数に達したので、更なる農福連携の推進では、障がい福祉サービス事業所も加わった展開を目指している。通所者の社会参画や工賃向上などにつながるものとして理解。

まずは、事業所の農作業に対する理解を深める体験会を引き続き開催したい。

4. 所見・西尾市政への反映に向けた課題

- 横須賀市の「農福連携」は、農業のさかんな西尾市が、今後取り組んでいくべき方向性を示している。農業の担い手不足と障がい者雇用を解決するため、多くの事業所や関係機関が協力していくという考え方がこれからは必要になってくる。西尾市でも、障がいのある方や家族、関係者たちの貴重な意見に耳を傾けている。行政ができること、やらなければならないことを吟味しなければいけない時期が来ていると考える。



視察中の様子

- 障がい者等の就職への課題と農業の担い手不足問題を同時に解決できるすばらしい事業と感じた。サービス事業所と行政とが連携とれば障がい者をもつ親にとっても安心してもらえる場所にもなる。ぜひ、進められるよう努めたい。

収支報告

項 目	支出金額	備 考
調査研究費	1 9 2, 6 3 0 円	旅費 1 8 3, 6 3 0 円 手土産代（送料込） 9, 0 0 0 円
資料作成費	円	
資料購入費	円	
事務費	円	
計	1 9 2, 6 3 0 円	